

TOPIX

修了生が語る ぶぎん経営幹部養成塾の魅力

ぶぎん地域経済研究所では、次代を切り拓く経営幹部の育成を目的に、2011年度から毎年「ぶぎん経営幹部養成塾」（以下、養成塾）を開講（共催：武蔵野銀行）しており、これまでに延べ440名にのぼる修了生を輩出しています。2026年度は「次世代業績基盤確立に向けてのリレーションシップ」をテーマに、昨年度に続いて、仮想企業の経営幹部となり、事業計画を立案し他社と競い合う企業戦略シミュレーションを採り入れるなど、実践しながら経営手法を幅広く学びます。

また、グループディスカッションや1泊2日での合宿研修、交流会などを通じ、さまざまな考え方や情報を吸収できる全7回にわたるカリキュラムを用意しています。

今号と次号では、昨年度、本養成塾を修了された2人にぶぎん経営幹部養成塾の魅力について話を伺いました。第1回はステンレスアート共栄の永友さんをご紹介します。



「2026年度ぶぎん経営幹部養成塾」は2026年10月開講予定です。

2025年度 修了生

有限会社 ステンレスアート共栄

広報 永友 夏海氏



— 御社の事業内容について簡単に教えていただけますか。

当社はステンレスを中心とした金属の板金加工を主力とし、溶接・機械加工・研磨まで一貫対応できる体制を強みとしています。創業時の研磨技術を活かしつつ板金部門を拡大し、設計から組み立てまで担う総合ものづくり企業として事業を展開しています。

— 受講する前、養成塾にはどのようなイメージを持っていましたか。

以前、養成塾とはまったく性質の異なる、板金業界向けの専門講習に参加した経験があります。その講習は参加者がすべて同業者の方々限定された実技中心のものでした。その経験があったからこそ、今回の養成塾では異業種の方々と交流できる点に魅力を感じ、自分の立ち位置や会社を外側から見つめ直す機会になるのではと期待していました。むしろ楽しみな気持ちの方が大きかったです。

— 特に印象に残った講座やプログラムはありますか。

印象に残ったのは「自社PR大会」です。自社の概要や商品・サービスをパワーポイントで資料化し、発表しました。発表を通じて、自分には“伝えること”に関する強みがあると気づきました。声を通り、人前で話すと自然と注目を集めやすい点を講師の方々から評価いただき、資料についても「分かりやすい」と言っていただきました。他の受講者の発表からも多くの学びがあり、丁寧な分析や資料の工夫など、自分にはない視点を吸収できました。最終発表では全受講者の中から2名に選ばれ発表する機会をいただき、大きな自信につながりました。

また、プレゼンをきっかけに他の参加メンバーに興味をもってもらい、見積り相談や工場見学の依頼など、実際の仕事につながる成果も得られました。

— 難しかった内容や、ご苦労された点がありましたか。

難しく感じたのは、企業戦略シミュレーションのプログラムでした。普段の業務では必要な数字だけを扱うことが多いため、細かな計算を積み重ねながら戦略を組み立てる形式では、参加者それぞれの経験値によって理解のスピードに差が出ていたように思います。経理に精通した方はすぐに把握されていましたが、財務に触れる機会が少ない人には難易度が高かった印象です。チーム対抗のシミュレーションでは序盤こそ上位に入ったものの、後半で投資判断を誤り、最終的には成績を落としてしまいました。財務の基礎理解の必要性を強く感じました。

— 他の参加者との交流を通じて得られた気づきや学びはありましたか。

セミナー終了後には少人数で食事に行く機会があり、仕事の話から業界の課題までじっくり話すことができました。異業種の方々と率直に意見交換できたことは大きな刺激で、普段の環境では得られない視点を知る貴重な時間でした。もちろんセミナーの内容自体も勉強になりましたが、終了後のコミュニケーションの場を通じて得たつながりの価値もより実感することができました。

— 今後参加を検討される方々へのメッセージをお願いします。

養成塾への参加を迷われている方には、ぜひ一歩踏み出してほしいと思います。社内だけでは得られない視点や気づきが多く、さまざまな業界の参加者と関わることで、自分の考え方や会社の状況をより広い視野で見つめ直すきっかけになります。将来的に責任ある立場を目指す方にとっても、余裕のある今のうちに学びを積み重ねておくことは大きな財産になります。学びと成長の機会として、強くおすすめできる場です。